別紙様式１

看護学概論　学習指導案

広島県立広島皆実高等学校
（教　諭・柏　原　祐　子）

本学習指導案のポイント（高校教育指導課指導主事　宮本　洋子 ）

本学習指導案では、看護が対象とする「生活」とは何か理解し、患者のその人らしさを大切にした看護を実施する実践能力を習得させるように工夫された授業展開となっています。これまでの学習内容を活用し、事例の場面で看護援助を行うための情報収集の内容を具体的に思考することで、疾患に関する身体的側面の情報だけではなく、患者の心理的・文化的・社会的側面に関して情報収集を行う必要性を理解するよう工夫されています。

１　日　時　令和５年８月 30 日（水）　２限
２　場　所　専攻科１年　ＨＲ教室
３　対　象　専攻科１年生　40 名
４　単元名　看護学概論「看護の対象の理解」
５　単元の目標

人間に共通する特性である基本的欲求や成長・発達の過程について理解させるとともに、対象の個別的な病状や心理的・文化的・社会的な状態を把握して看護を行うことが重要であることを理解させる。

６　単元について

（１）単元観

看護を行う場合は、看護の対象を全人的に把握する必要があることを踏まえ、生活者である人間を身体的・心理的・文化的・社会的側面をもつ統一体として理解する必要がある。また、看護はあらゆる年齢層の様々な健康レベルにある人を対象とすることから、多様な健康観があること及び健康観は時代や文化に影響されることも理解していく必要がある。看護が対象とする「生活」とは何か、生活者である人間に対して、看護はどのような役割を果たすのか、個人だけでなく家族・集団・地域も看護の対象であるということを気付かせ、その人らしさを大切にした看護を行うための知識と技術を習得させるとともに習得した知識と技術を適切に活用できるようにすることがねらいである。

（２）生徒観

生徒は専攻科１年生であり、看護の対象の理解については、衛生看護科での学習や臨地実習の経験から、看護の対象は誰かという質問に対し、全員の生徒が答えることができた。また、衛生看護科の実習で看護の対象を意識した実習が行えていたかという質問に対して８割の生徒ができたと答えている。このことから、生徒が看護の対象の理解について一定の知識は身に付けていることがわかる。そして、専攻科から臨地実習でゴードンの機能的健康パターンに基づいて看護過程の展開を行っており、疾患に関する身体的側面の情報だけではなく、患者さんの心理的・文化的・社会的側面に関しても情報を得てアセスメントを行う事を学習し始めている状況である。看護の対象となる人々は、一人として同じ人はいないため、対象者のその人らしさを考えた看護は何か判断する力をさらに身に付けていく必要がある。

（３）指導観

看護を行う上では看護の対象のその人らしさを大切にした看護の関わりが重要である。そのため、看護が対象とする「生活」とは何か理解し、事例を通して看護の対象へその人らしさを大切にした看護援助を行うための看護の役割は何かを考えることで、臨地実習で情報収集を行う際には疾患に関する身体的側面の情報だけではなく、患者さんの心理的・文化的・社会的側面に関してしっかりと情報収集を行う必要性を理解させたい。そして、生徒のこれまでの臨地実習や既習の学習内容を活用して考えることができるように指導していきたい。また、今後看護師として、チーム医療の一員として活躍するために、チーム協働の視点からグループワークを行い、他者の意見を共有することで、主体的かつ協働的に取り組ませたい。

７ 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技術	知識・理解
看護の対象について関心を持ち、看護の対象に合わせた看護とは何かについて主体的に学習に取り組むとともに実践的な態度を身に付けている。	看護の対象に合わせた看護とは何かについて思考を深め、看護の対象に合った看護を適切に判断し、表現している。	看護の対象に合わせた看護についての知識を身に付け、看護の対象に合わせた看護について既習の知識を活用している。	看護の対象についての知識を身に付け、看護の対象に合わせた看護とは何か理解している。

８　単元の指導計画（全２時間）

時間	学習内容	評　価				
		関	思	技	知	評価規準
１時間	A　人間の「こころ」と「からだ」を知ることの意味 B　生涯発達し続ける存在としての人間の理解	○			◎	人間の「こころ」と「からだ」について、また生涯発達し続ける存在としての人間について基礎的知識を身に

						付け、看護の対象について理解している。
1時間 本時	C　人間の「暮らし」の理解 ①　生活者としての人間 ②　看護の対象としての家族・集団・地域		◎			看護が対象とする「生活」とは何かを理解し、事例を通して看護の対象へその人らしさを大切にした看護援助を行うための看護の役割は何か思考・判断し述べることができる。

9 本時の授業

（1）本時の目標

事例を通して看護の対象にその人らしさを大切にした看護援助を行うための情報収集の内容を具体的に表現することができる。

（2）観点別評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技術	知識・理解
	看護の対象にその人らしさを大切にした看護援助を行うための生活の４つの側面に対する情報収集の内容を具体的に考え表現することができる。		

（3）準備物

教科書：医学書院「看護学概論」副読本：NOUVELLE　HIROKAWA「ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント」メヂカルフレンド社「患者さんの情報収集ガイドブック」　ワークシート個人パソコン

（4）ルーブリック

A	B	C
看護の対象にその人らしさを大切にした看護援助を行うための生活の４つの側面に対する情報収集の内容を臨地実習や既習の内容と関連させて具体的に考え表現できる。	看護の対象にその人らしさを大切にした看護援助を行うための生活の４つの側面に対する情報収集の内容を具体的に考え表現できる。	看護の対象にその人らしさを大切にした看護援助を行うための生活の４つの側面に対する情報収集の内容を考えることができない。

（5）学習の展開

	学習活動	指導上の留意点 ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て	評価規準 (評価方法)
導入 5分	1　本時の目標を確認する。	◇本時の学習目標を伝える。	
	2　課題を見いだす。 ・事例患者の状態を理解する。	（発問）患者のその人らしさを大切にした看護援助を行うためにあなたはどの様な情報をとりますか。	
事例　Aさん　４５歳　直腸がん　家族は妻と子供２人（中学生と高校生）の４人暮らし。会社の営業課長で仕事熱心で朝から夜遅くまで得意先への訪問など多忙な日々を過ごしていた。出張が多いため外食が多かった。休日は趣味のゴルフやマラソン大会への出場、また家族と外出し過ごすことも多かった。数か月前より排便時に出血がみられていたが、仕事が忙しいため、放置していた。妻から受診を促され、直腸がんの診断を受け、手術目的で入院となり、直腸切除術を受けて左腹部にストーマを造設した。入院中に仕事ができないことを気にしていた。手術後は、退院後の生活ができるか不安を訴えている。			
展開 40分	・ラインを引いたところを全体で発表し共有する。 ・ほかにどのような情報が必要か個人で考える。 ・個人で考えた意見を共有しグループで必要な情報を再整理する。(ジャムボード使用) ・全体で発表する。 3　課題解決を行う。 ・看護の対象のその人らしさを考えた看護について考える。	◇発表する時には、なぜその内容がその人らしさを表していると考えるのか簡単に説明をしながら発表するよう促す。聞いている生徒は追記が必要であれば行うよう促す。 ◇本時の目標を確認し、生徒がこれからのワークの中でどのように取り組むと良いのか理解できるように指導する。 ◇グループ内で一人１回は必ず発言することを伝える。 ◆グループワークに参加できてない生徒には声をかけてワークに参加できるようにする。 ◇生活の４側面ごとに理由をふまえながら発表させる。 （指示）その人らしい生活が継続できるように援助するとは、どのようなことかあなたの考えを記入しましょう。	看護の対象にその人らしさを大切にした看護援助を行うための生活の４つの側面に対する情報収集の内容を具体的に述べることができる。 （思考・判断・表現）
まとめ 5分	4　本時のまとめ	◇ルーブリックを活用し、本時の到達度、今後の課題を明確にする。 ◇自己評価表を記入する。	